2006年秋　第43号

ダルニー通信

43

ラオス奨学金速報

目標達成！新小学 3 年（新規）分の奨学金数

厳しい状況下での皆さまのご協力に感謝

2006 年度は、現地の多くの子どもたちの希望にこたえるため、新小学 3 年生 2,250 名以上（昨年は 2,198 名）、4 年生、5 年生とあわせて全体で 6,450 名の小学生へ奨学金を贈ろうと目標をたてて募金活動をしてまいりました。

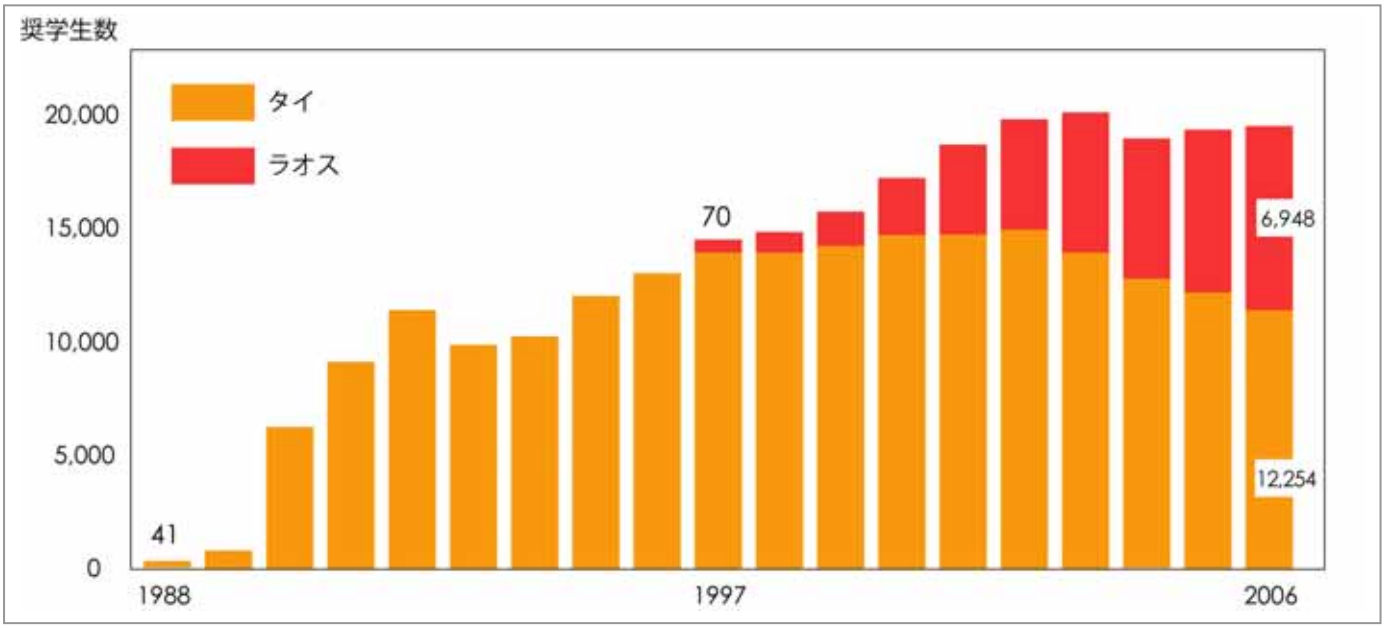
原油の高騰、公共サービス料の値上など暮らしの先行き不透明感から、特に話題性のない国際協力への募金環境は大変厳しいものでした。しかし、そのような厳しい状況下にもかかわらず、多くの心ある方が関心を寄せてくださり、おかげさまで目標を達成し、多くの奨学金を子どもたちへ届けることができました。

しかし、まだまだ奨学金は足りないのが現状です。来年度は奨学金を必要とするさらに多くの子どもたちへ奨学金を贈りたいと願っております。どうか今後ともラオスの子どもたちへのご支援をよろしくお願いいたします。

遅れる「ミレニアム宣言」の公約実現

教育はすべての子どもたちが生まれながらに等しく持つ権利といわれ、また貧困やさまざまな問題を解決する重要なカギといわれています。2015 年までに普遍的初等教育を達成するという世界の公約「ミレニアム宣言」は、世代を超えて連なる貧困の連鎖を断ち切るという希望を示します。

しかし、ミレニアム宣言もその実現に向けて行動をおこさなければ、絵に描いた餅に終わってしまいます。宣言後 5 年経過した、2005 年の国連開発計画の調査報告によると、目標達成はすくなくとも 10 年以上遅れ、2015 年に学校へ通えない子どもは世界で 4,700 万人と予測されると述べています。ラオスもしかり、予断をゆるさない状況にあります。2004 年 6 月に発表されたラオスの貧困削減戦略書でも初等教育に重点がおかれていますが、15 歳以下の人口の比率は大きく、教育への十分な公的支出が望めないのが現状です。だからこそ、自立の基礎となる基礎教育への支援が重要となっており、皆さんのご支援が大きな力となっているのです。



長い夏休みが終わり、子どもたちが進級する新学期がやってきました。子どもたちは皆、新しい制服に身を包み、新しいかばん、新しい学用品を持って希望に満ち、新しい友達に会えるのをとても楽しみにしています。しかし今年３月、スリン県の小学校を卒業したジョーイ（写真右）は、学校の門をくぐる友だちを遠くから眺めることしかできませんでした。片手にかばんを持ち、校門で迎えてくれる先生に合掌をする他の友達と同じように自分も合掌をしたかったのですが・・・。

タイ事務局（EDF）レポート

「中学に行けない」と途方に暮れる生徒

奨学金を一度は断念せざるを得なかった少女の挫折感とは？

ジョーイは小学校６年のとき、ダルニー奨学金に申し込みましたが、残念ながら奨学金を受給することができず、いったんは中学就学を断念しました。しかし、奨学金提供者の追加や新奨学生から辞退者が出るため、タイ事務局で毎年行う中学入学後の奨学金授与者再調整の結果、中学に行くことが出来ました。この記事は、ジョーイが奨学金の選考に漏れた後、そして、まだ奨学金授与が決定する前、EDF スタッフがたまたま彼女にインタビューしたものです。

ジョーイは小学校ではとても行儀がよく成績も優秀でした。しかし、彼女の家庭はとても貧しく、両親は彼女を中学へ進級させることができませんでした。それで、ジョーイは自分のように貧しい家庭に生まれた子どもは、小学６年生まで学校に行くことができただけでも十分だと自分に言いきかせています。しかし、その一方で、いつか誰かが手を差し伸べて中学就学の夢の実現を助けてくれるかもしれない、と思っています。夢が捨てきれないのです。

さて現実は、朝、起きてご飯を炊き両親とご飯を食べ、それから学校へ行くという、これまでの日常がなくなってしまいました。「私のお母さんは、中古品販売店で使うビニール袋を洗う仕事をしていますが、１日に何十バーツにもなりません。お父さんは、雑草の刈り取り、田植え、稲刈りなどの日雇いをしています。雇ってくれる人がいればどんな仕事でもします。とても疲れていても、今まで仕事のことで一度も文句を言ったことがありません。私が出来るだけ学校に通えるようにと一生懸命に働いてくれましたが、学校へ行くのに１バーツのお金もない日もありました。私は、お

小学校6年のときのジョーイ（左）とジョーイの家（下）

父さんとお母さんのことがかわいそうでなりません。でも、どうやって助ければいいのかもわかりません。両親の負担を少しでも軽くするために仕事を探しに行っても、小さい私を雇ってくれる所などありません。今の私にできるのは、明るい将来のため、今よりも恵まれた生活ができるため、一生懸命に勉強することだと思うのですが・・・。私も友だちのように中学へ行きたい。けれども今の収入では家計さえも足りない状況です。村の基金からお金を借りたくても、まだ借りているお金があり、いつ返せるかもわからないので借りることはできません。

私の夢は先生になることです。先生は、子どもたちにたくさんのことを教えてくれて温かな愛情を注いでくれるからです。でも、今の私にはもうこの夢をかなえるチャンスがなくなってしまいました」

ジョーイとその家族にとって今は、その日その日を暮らすために、目の前の仕事をこなしていく毎日です。他の貧しい家庭の子どもと同じようにジョーイも勉強を続けたくてしかたがないのですが、そのチャンスがあまりにも遠すぎて、途方にくれるばかりです。（タイ事務局のニュースレター「ダルニーニュース」より転載）

2005 年度円高為替差額事業（タイ）

地域の伝統技術等を学ぶ 15 校

東北地方で地域の発展を担う世代の育成

ダルニー通信 41 号の 5 ページで両親が出稼ぎに出てしまう「準孤児」の数字を紹介しました。タイ事務局（EDF）の調査によると、ダルニー奨学生の 4〜5 人に 1 人の割合です。地元に収入の道がなく、両親が 2 人とも都会に働きに出てしまうためです。「地域の発展に貢献できる人材の育成＝教育支援」を目指す民際グループは、将来における地域自給力の向上を図るため、奨学金の円高差額から生じたお金を資金に東北地方の中学校に助成金を出しています。地域の個人、農家、自治体、企業などから技術協力を得て、生徒たちは無農薬有機農業、機織、養豚と養魚の複合飼育、バナナの茎など地元の資源を利用したハンディクラフト製品作りなどを学んでいます。2005 年度に助成金を得た 15 校のうち、ここでは 5 校（下の表の青色の部分）の事業を紹介します。

（上）（下）無農薬野菜を育てる生徒たち
バナナの茎を材料に作った製品

■無農薬有機野菜の栽培

タイでも除草剤や殺虫剤などを使う農家の人たちが体の痛みや体調の変化を訴え、またそれらを使って育てた野菜の健康への悪影響が心配されています。しかし、効率の観点から、無農薬有機栽培に切り替える農家はまだ少ないのが現状です。そこで、バーンノンカ校は助成金を利用して栽培用の温室と種子を購入し、郡庁から指導者を呼んで、地域ではまだ馴染みのない無農薬有機農業を始めました。育てている野菜はキャベツやレタス、とうがらしなどで、効率性と採算をにらみながら栽培を行っています。2005 年度は 7,000 円の販売収入がありました。実験的な無農薬有機農業に興味・関心を持つ地域の農家も学校に集まり、生徒と一緒に学んでいます。今後の課題は十分な水の確保です。家で育てている野菜を早速、学校で学んだ有機農法で育て始めた生徒もいるそうです。

■バナナの茎を利用した織物

バナナの茎なら森に入れば、すぐに見つけることができる。しかも一年中手に入る。つまり、自然環境を破壊せず、地元の資源を利用して織物を作ることがで

県	学校	プロジェクト名	2005 年度助成金（バーツ）（＊は 2004 年度から継続）
ウボンラチャターニー	ノンクンウィッタヤ校	機織	50,000 ＊
同上	バーンカムコム校	ナンプラー作り	50,000 ＊
ノーンカーイ	バーンナグー校	ナマズと蛙の養殖	50,000 ＊
ルーイ	チュンチョンバーン校	養蚕	50,000 ＊
シーサケット	プームサロウィッタヤコム校	養豚と養魚	50,000 ＊
ノーンブアランプー	バーンサイムーン校	キノコ栽培	50,000
ナコーンラーチャシーマー	クロンムアンピッタヤコム校	堆肥づくりと有機野菜栽培	36,330
同上	タノドピッタヤコム校	塩水の浄化と農業	100,000
同上	ノンカムピッタヤコム校	バナナの茎を利用した織物	100,000
コーンケーン	バーンワンヒン校	なまずの養殖	46,700
同上	バーンワンプーカムポム校	昼食支援	55,119
カーラシン	クロンチャイウィッタヤコム校	養魚	50,000
チャイヤプーム	バーンノンカ校	無農薬有機野菜の栽培	51,320
サコンナコーン	クッドバークパッタナ校	複合農業	100,000
ウドンターニー	バーンノンプラサート校	養豚	100,000
合計			939,469

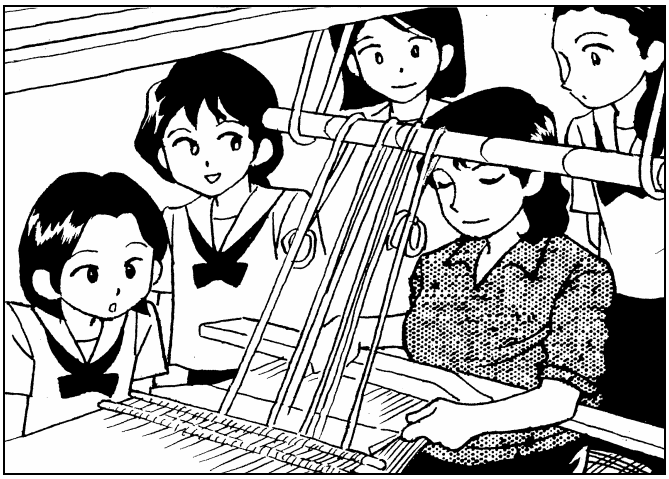
きる —— ノンカムピッタヤコム校のローンティワ先生はこのように考えて、バナナの茎から糸をより、それで布を作ることをはじめました。そして早速、学校のカリキュラムに組み入れました。茎の繊維をよって糸にするのは手作業なので、多くの時間がかかるのが難点ですが、出来上がりの品質は木綿や絹にひけをとりません。現在、生徒たちは携帯電話入れ、ティッシュペーパー箱のカバーなどを作り、地域の展示会などに出品しています。生徒たちは織れば織るほど技術が向上していることを実感しており、将来、バナナの茎で事業を起こそうと考えている生徒もいます。

■ナンプラー（魚醤）製造

近くの川で魚が豊富に取れるバーンカムコム校は、その魚を利用したナンプラー作りを行っています。指導は地元資源の活用で収入向上をめざす地元の女性グループです。村にはナンプラー製造工場もあり、ナンプラー作りの技術が村に蓄積されています。同校では、魚を発酵させる過程も含め、ナンプラーの製造には８～９ヶ月かかります。市販されているナンプラーの味に比べるとまだまだで、改良すべき点が多々あり、これまで生産したナンプラーは生徒の親が購入してくれた分を除くと、県内の他の学校に提供したり、自分たちの昼食に使ったりしています。しかし、学校側は「さらに技術アップし、もう少し品質が向上すれば、市場で売ることが出来る。1 本 20 バーツ、年間 250～300 本、つまり年間 5,000～6,000 バーツ（15,000～18,000 円）の収入になる」とそろばんをはじいています。

■養魚（ナイルテラピア）

自宅で魚の養殖をしているクロンチャイウィッタヤコム校のチャーウィト先生が学校の敷地内にある 3



絵＝倉田克己

つの池を活用して、ナイルテラピアの養魚方法を生徒に教え始めました。テラピアを選んだ理由は、①池の中にテラピアの好むエサが豊富にあること、②病気になりにくいこと、③成長すると 0.5～１キロになり、市場で 1 キロ 40 バーツ（120 円）で売ることができるからです。同校は 2005 年度に 4,000 バーツ（12,000 円）の販売収入を得ました。また、魚の一部は、経済的に貧しい家庭の生徒への給食として使われました。魚の養殖への興味・関心が強くなった生徒たちは、魚の養殖を見学するため、他の村などに出かけることもあるそうです。

■複合農業

クッドバークパッタナ校は、同校の隣にある農業技術研究センターの協力で、トウモロコシ、豆、米などの農業、養魚（ナマズ）、黒豚の養豚（写真右上）を同時に手がける複合農業を実施しています。残飯や厩肥（豚の糞尿）などをそれぞれのエサや肥料として循環させる仕組みを整えることで、生徒たちは自然体系を壊さない農業を学んでいます。

（左）生徒たちが作ったナンプラーのビン（完成品）、（真中）ナイルテラピア、
（右）ナイルテラピアを飼う池で指導をうける生徒たち。

津波支援で集めた募金を

タイ大使に会って、直接手渡した！！

神奈川県座間市立栗原中学

神奈川県座間市立栗原中学校は、1995 年からダルニー活動を行っており、今年で 11 年目になります。今年の 3 月 23 日には、民際センターの高橋さんをお招きして講演をしていただくと同時に、集めた「書き損じはがきとテレカ」を直接お渡しすることができました。書き損じはがきは 986 枚、それに 50 度数未使用テレカ 23 枚、105 度数 1 枚を現金に換算して 49,651 円になり、349 円を足した 50,000 円を寄付させていただきました。

書き損じはがきは、現在、生徒会が中心になって集めています。各クラスの学級委員が毎月集まる評議会や生徒総会で書き損じはがきの収集状況を報告し、書き損じはがきの収集を呼びかけます。それを受けた学級委員がクラスに戻って、クラスの生徒に呼びかけるという方法です。

●大使館で大使に会えた！！

さて、このダルニー活動を通して奇跡的なことが起きました。それは津波の被害に遭ったプーケット島やタイ東北地方の被災者の支援に協力したいと昨年 1 月、生徒会が立ち上がり、全校生徒に寄付を呼びかけました。この寄付をやろうと考えたのは、ダルニー活動で支援しているタイの子どもたちが被害に遭っていることを知ったからなのです。ダルニー活動を行っていたからこそ募金活動を行うことができたのです。そして、その募金を直接、東京にあるタイ大使館に持って行ったのですが、何と募金を持っていった生徒会の生徒たちを待っていてくださったのは大使だったのです。募金活動をして集まったお金を直接大使に手渡すことができ、お話させていただくこともできました。生徒達にとっては、忘れることのできない時間となりました。そして、その年の 4 月に大使館でのイベントにも招待されました。

後列真ん中が大使。タイ大使館で

今年は栗原中学にとって大変記念すべき開校 30 周年の年です。そして、このダルニー支援活動を通して、国際的な視点で物事を考える力がついてきています。今後も続けて取り組んでいこうと生徒会本部役員や文化福祉常任委員たちがはりきっています。開校 50 年を迎えた 20 年後には、タイやラオスの子どもたちが皆学校に通えていることを夢見つつ、これからも活動を続けます。

平成 18 年度も引続き「NGO 相談員」を外務省より受託しました

昨年度に引続き、今年度も NGO 相談員として国際協力に関する様々なご相談やご質問にお答えいたします。例えば、「NGO って何？」「将来、国際協力の仕事をしたいのですが・・・」「総合学習の講師として招きたい」など、何でもお気軽にご相談ください。担当の本田多衛子、冨田直樹がお答えいたします。なお、関東地方とその周辺地域には出張サービスも可能です（旅費無料）。地域でのイベントや学校行事などにもぜひご活用ください。

電話:03-5292-3260　FAX:03-5292-3510　E-mail:ngosoudan@minsai.org

出張サービス(都留第一中学校)

NGO相談員とは？

NGO の組織作り、管理運営のノウハウ、国際ボランティアへの参加など国際協力に関することについて、外務省の委嘱を受けた経験豊かな日本の NGO の職員が皆様の相談・質問・紹介に対して助言や情報提供を行います。国際協力イベントでの相談コーナーや講演・セミナーの講師など「出張サービス」も実施します。本年度は全国で 17 団体が受託しました。詳細は外務省のホームページで。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kaikaku/oda_ngo/shien/kankyo.html

■■■ 大学生がユニークなボランティア

小さな声がたくさんの人に届くために

～明星サマースクールプロジェクトができること～

2006 年 7 月 31 日から 8 月 5 日までの 6 日間、明星大学の学生と海外ボランティアによる、小中高校生向けのチャリティー英語講座・明星サマースクールプロジェクト（MSSP）を開催しました。MSSP は今年で 5 年目となりました。

今年の MSSP には 120 人を超える子どもたちと、12 人の海外から来たボランティアの方々が集まりました。子どもたちは「教育を受けたくても受けられない」というラオスの子どもたちの現状を知り、自分のお小遣いや、子ども自身が両親にラオスの現状を説明して寄付金を募ったり、書き損じはがきを集めたりしてくれました。

MSSP がこの活動を始めた 5 年前の 2001 年に、私たちは「ダルニー奨学金」と出会いました。

MSSP のチャリティー英語講座では、ボランティアで明星大の学生が子どもたちに英語を教えます。これと平行して、講座内に「ダルニー奨学金講座」を組み込みこみます。これは、小中高生やその父母にそれぞれの理解度に合わせた内容で、ラオスやダルニー奨学金に関する説明を行い、奨学金を募るというものです。この講座を開講することにより、受講してくれた子どもたちやその親だけではなく、私たち明星大の学生や海外の人々もダルニー奨学金のことを知ることができます。

さらに、MSSP の枠を超え、ダルニー奨学金の個人ドナーとなり奨学金を寄付する方や、個人的に奨学金の広報活動に積極的に取り組む方がでてきました。このように、私達の小さな呼びかけはやがて大きな力へ、すなわち「経済的貧困のために学校に通うことができないタイ東北地方やラオスの子どもたちへの寄付金」へと繋がるのです。

MSSP では、今後も一人でも多くの子どもたちがより良い環境の中で教育を受けて、希望を持ち、明るい未来を拓いていけることを願い、MSSP やたくさんの知識を生かし、利用して、ダルニー奨学金に協力していきたいと思います。

■■■ 市の補助団体による書き損じはがき収集活動

機関紙に掲載し、書き損じはがきが 5 倍に

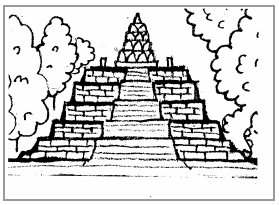
愛知県・豊明市国際交流協会（TIRA）

集まってくる書き損じはがきを眺めながら「どんなことにこのはがきを役立てようか？」と支援先を模索していました。その一方で、「ダルニー奨学金支援」については「顔の見える」「１対１の教育支援」として多方面な場で耳にしていました。「実感と手応えのある支援」ができたら、書き損じはがきを送って下さった皆様の心に感謝でき、生きた支援になるという判断から、最終的に「ダルニー奨学金」に支援することに決定しました。そして、支援は小学生を対象に考えていましたので、ラオスの子どもに決めることにしました。

奨学生の写真と証書が送られてきた時には、感動しました。子どもの写真を見ながら素朴で柔らかく、しかもすっと伸びた姿勢と眼差しの奥に厳しい現実を感じ、愛おしくさえなりました。

当協会の事務局は豊明市役所市民協働課内にあります。毎月発行される市の広報と一緒に、協会発行の機関紙 TIRA（１月号）を全戸配布いたしました。TIRA は年２回発行し、その中でダルニー奨学金支援について紹介し、書き損じはがきの回収の協力をお願いしました。それが功を奏し、市民や会員の方々から沢山の年賀状の書き損じはがきが届けられたのです！ 感動でした。

はがきをくださった皆様の小さなボランティア精神が大きなものとなり、続いて二人目の子どもを支援することになりました。生きた支援がさらに広がるよう、現在も啓蒙活動をしております。



11 月タイ研修旅行のごあんない

タイ東北地方ブリーラム県へ 4 泊 5 日の旅

昨年から、お勤めの方や体力に自信のない方にも気軽に参加していただけるよう、11 月研修旅行は 4 泊 5 日の日程で実施しています。今年も祝日、土・日曜日を含みますので 2 日間だけ休暇をとれば参加できます。

訪問先はカンボジアと国境を接し、アンコール朝時代の遺跡を残すブリーラム県です。

短い日程でも他の観光旅行では味わえない、研修旅行の特徴を十分いかした感動の旅となることでしょう。特にブリーラム県に奨学生を持つ方は、ぜひこの機会にご参加ください。

実施要領

日　程：11 月 22 日（水）～26 日（日）
訪問先：タイ国ブリーラム県
参加費：一人 166,000 円（成田からの往復航空券、団体での全交通費、宿泊費、食費、通訳費、保険料を含む。個人的な飲食費、電話代などは除く。他にバンコク集合のコースもあります）

5 月研修旅行参加者の声

①　様々な体験、大きな糧に　　清藤　朋（大学生）

清藤さん母娘と奨学生（右）

このたび５月のタイ研修旅行に参加させていただきました。タイに行くのも、民際の研修旅行に参加するのも初めてでした。私がこの研修旅行に参加したいと思った理由は、村のホテルに泊まるのではなく、タイの家族の方と一緒に過ごせるというのがとても魅力的だったからで、タイ語は全く喋れない私にとって、民際の研修旅行でなければ絶対に実現しない旅行でした。また、金銭的な寄付という一方的な援助活動で終わるのではなく、この旅行に参加することによって現地の奨学生の子ども達と同じ目線でものを感じることができれば、学費援助の他にも、私にできることが見えてくるのではないかと思ったからです。

この旅行には、日本から民際のスタッフの方と、通訳の方、そしてタイで合流してくださったスタッフの方、計４名が私達をがっちりとサポートしてくださり、本当に安心して過ごすことができました。

村の朝は鶏の鳴き声で目覚めたり、お寺で村の方達と喜捨したり、水牛が耕した畑で田植えをしたり（！）と私には新鮮なことばかりでした。また、奨学生の女の子にも会うことができました。でもお互い緊張していたのであまり会話することができませんでした。今度は、私がもっとタイ語を勉強して手紙を書き、もう一度会いに行こうと思います。この旅行は私の大きな糧となりました。お世話になった皆さま、ありがとうございました。

②チュムセム村で交わした約束　神林春美（会社員）

左からジンタラー（右ページ参照）、カンチャナー、神林さん。学校の帰り道で

トタン屋根に降りつける真夜中の轟音。わずかな街灯の光しか感じられない村の夜に、突如訪れたその訪問者を、翌日、村の住職は「恵みの雨」と言い、私達日本人を歓迎する言葉にたとえた。村はもうすぐ田植えの時期。その日初めて出会った私の13歳の“娘”の家も農家だと聞いていた。娘の名前はカンチャナー。自分の田も持たない、貧しい家に育った彼女は、大きな休みになると、稲刈りを手伝い1日100バーツの報酬を得る。「ほら、ご覧なさい」、そう言って、胸元に手をやる彼女のおばあちゃんも、金のネックレスを売りお米を買う足しにしたと言う。「もう、何も持っていない……」、そう言うかのように、言葉の通じない私に、着飾ることを忘れた胸元を見せてくれた。「カンチャナー。私はあなたを3年間守ることを約束するよ。安心して」。帰り際、そう伝えずにいられなかった私に、彼女は、しなかやな仕草で手を合わせ、美しい笑顔を返してくれた。5年前、彼女を置いてバンコクに出て行ったという母親の、ほんの少しでも代わりができたら……と、思う。

資料の請求方法（9 月 30 日締め切り）

郵便：ご自分の宛先を明記し 90 円切手を貼付した返信用封筒を同封の上、事務局へご請求ください。
電子メール：info@minsai.org までご請求ください。
資料は電子メールで送信します。

♪♪ チャリティーコンサート2006 ♪♪

一昨年、昨年に引き続き、長年のドナー（奨学金提供者）でヴァイオリニストの小谷公子さんが今年もチャリティーコンサートを開催してくださいます。今回はマリンバ演奏家も参加してくださり、多種多様な音色に出会えます！ 収益金はダルニー奨学金に充てられます。

日時：2006 年 10 月 22 日（日）　18：00 開演　（17：30 開場）
場所：めぐろパーシモンホール小ホール
（東急東横線都立大学駅より徒歩 7 分）
チケット代金：2,990 円

第一部（マリンバ演奏）出演者
塩浜智子（洗足学園音楽大学卒業）
塩浜玲子（桐朋学園大学卒業）
♪演奏曲：剣の舞（ハチャトリアン）、アルハンブラ宮殿の思い出（タレガ）、さくら他

第二部出演者
ヴァイオリン：　小谷公子(元相愛大学講師/写真中央)
ピアノ：　岡田春恵（桐朋学園大学卒/写真左）
ヴァイオリン：　孔祥苓（ニューヨーク市立ブルックリン大学院音楽学部卒。アンサンブルオーケストラのメンバー/写真右）
♪演奏曲：　スケルツォ（ブラームス）、ソナタNo.5（モーツァルト）、OBLIVION/忘却（ピアソラ）他

★お申し込み：民際センター　TEL03-5292-3260

民際オリジナルグッズの販売！

民際センターが支援するタイ・ラオス・カンボジアの子どもたちの写真を、『絵葉書セット』と『2007年カレンダー』にしました。収益はダルニー奨学金に充てられます。

(1) 絵葉書6枚セット　500円
写真家でドナーの青松秀幸氏がラオスで撮影した珠玉の作品から以下の6枚を選びました！

(2) 2007年カレンダー　600円
民際センタースタッフが、タイ・ラオス・カンボジアへの研修旅行等で撮影した写真で作製した卓上カレンダー（写真右は昨年の製品）です。大きさは148mm×100mmです。

お申込み：　民際センター　TEL:03-5292-3260
①氏名・住所・TEL/メールアドレス・購入品名と数量をお知らせ下さい。
②送料込みの購入代金と振込先を、お知らせいたします。
③発送は 10 月頃を予定しております。
★数に限りがありますので、ご注文はお早めに！

協力企業紹介

「FOLLOW YOUR HEART」ひとりひとりが輝く世の中へ

株式会社リクルート　総務部

当社は情報誌・ネット・モバイルを通じて就職や進学あるいは住宅・旅行・車などさまざまな情報を提供しており、こうした情報の提供を通じて、誰もが多くの選択肢の中から自分に合ったものを選べるような世の中を実現したいと考えています。冒頭の“FOLLOW YOUR HEART”というフレーズは、「すべての人が自分の思いに素直に従えるような世の中であってほしい。」という願いを込めた言葉です。

一方で現実にはさまざまな事情から希望する道をあきらめている人たちがいます。当社の社会貢献は小さな規模ではありますが、このような人たちが望む道を選択できるような応援をしたいと考えます。特にこれからの世界を担っていく子供たちが、将来に希望を持ち夢を実現するための支援をすることはまさに私たちの思いと同じです。私たちの寄付・協賛は小さな額ですがこれを大変有効に役立てていただけると考え、２００３年、２００５年とダルニー奨学金制度に参加させていただきました。また額面的な部分だけではなく、イベント等で使用し余った販促品や綺麗な衣類などを提供し活用していただいています。これまで支援した子供達の奨学証明書と写真を見るたびに、本当にこの制度に参加できてよかったと思います。これからも、一人でも多くの子供達が自分の希望する道を歩けるよう協力していきたいと思います。

支援するタイの奨学生 2 名の写真と報告書を手にする同社担当者

【編集部】今年５月の研修旅行に参加した神林春美さん（左ページ体験記参照）がリクルート関連企業に勤務し、滞在した村にリクルート社支援の奨学生ジンタラーがいるということで、ジンタラーの写真を送ってくれました。ジンタラーはドナー歓迎式で奨学生代表の挨拶をする明るく賢い少女だったとのこと。写真下の右端が、リクルート社から贈られた T シャツを着るジンタラー。

69 人／団体から 3,374,731 円

スマトラ沖津波募金終了しました

188 名の生徒に奨学金、5 校に備品などを提供

20 万人以上の死者を出したスマトラ沖地震の被災者に対し、ダルニー通信やホームページで支援を呼びかけた結果、69 名の個人／団体の方から合計で 3,374,731 円もの寄付が集まり、南部への出稼ぎ者が多かった（その結果、被害者も多かった）タイ東北地方ナコーンパノム県の子ども 132 名、南部の子ども 15 名、ビルマ（ミャンマー）からの出稼ぎ労働者の子ども 41 名が奨学金を得て学校に行くことができました。

南部 5 校の学校には学用品セットや自転車、貯水用タンクやテレビなどの備品を提供。さらに、タイで生活しているミャンマー（ビルマ）からの出稼ぎ労働者の子ども達を対象にエッセイコンテストと子ども達の交流を促すイベントも開催しました。ご寄付を送っていただいた方に改めて感謝申し上げます。

両親や年長のきょうだいが南部に出稼ぎに行き、その地で津波に遭って亡くなったり、行方不明になったりした東北地方の家庭は少なくありません。その 1 人、同県に住むダラ・シーシングさん（写真左上：現在、中 2）は津波で父と兄を亡くし、稼ぎ手を失ってお母さんと途方にくれていました。しかし、奨学金を得て、どうにか中学に通うことができました。彼女は「学校で友達としゃべっていると、父や兄を失った悲しみを忘れることができます」と現在の心境を語ってくれました。

一方、南部の学校では、津波で全壊したり、全壊は免れたものの教材や備品が流されてしまった学校が少なくありませんでした。パンガー県にあるバンタブラム校（写真左下）は、近くに海軍基地があるため、そこからの支援があるのではとの憶測から、外部団体の支援をほとんど得られませんでした。そこで民際グループでは、奨学金 15 人分、通学用の自転車 15 台、21 インチのテレビ 1 台、DVD プレーヤー1 台、飲料水用タンク 1 台を提供しました。

皆様からのご支援に改めて感謝いたしますとともに、復興がまだ遅れている地域もありますので、今後とも復興の成り行きを温かく見守っていただきますよう、宜しくお願いいたします。

グローバルフェスタ JAPAN2006

秋恒例の上記フェスティバルが以下のとおりの日程で今年も開催されます。NGO 等国際協力関連団体の出展数は約 200。第 3 世界の料理や音楽、民芸品、クイズと盛り沢山の内容。もちろん、民際センターも出展します。是非、お立ち寄り下さい。また、タイやラオスで買ったお土産などで余っているものがありましたら、会場で販売して奨学金にしますので、ご寄付をお願いします。

日時：9 月 30 日（土）、10 月 1 日（日）
　　両日とも 10 時～17 時
場所：東京・日比谷公園内
→詳しくは http://www.gfj2006.jp/

サワディー、民際ボランティアです

進学できぬ子の気持ち、痛いほど分かる

国政政博

1989 年 10 月の新聞記事を見てドナーになりました（当時の新聞は今も大事に保管しています）。定年後はお手伝いをしようと決め、在職中に事務所を訪ね、その内容を伺いました。そして退職後はすぐにボランティアを始めました。

ボランティアで書き損じハガキを整理中、担当の先生からの手紙が添えてありました。「本校は二十数名の生徒で・・・」。小さな学校で一生懸命にハガキを集めている生徒たちの情景を想像すると、熱いものがこみ上げてきました。この子ども達の心がタイやラオスの子どもたちに届くようにと思いながら、作業を続けています。

私は家庭の事情で高校進学を断念したため、進学を望んでもそれがかなわぬ子どもたちの気持ちが痛いほどわかります。自分の人生を顧みて、同じ気持ちにならなくても済むよう、微力ながら少しでもお手伝いできればと考えています。全国津々浦々から切手、書き損じハガキなどが届き、こんなにも多くの支援者がいるのだと心強く、1 人でも多くの子どもたちが学べるように願わずにはいられません。

連絡会ニュース

■ **佐久平ドナー連絡会**：長野県上田市の自治会「育成会」のメンバーから ダルニー奨学金の説明をしてほしいとの依頼があり、5 月 12 日、同市「上野が丘公民館」で出前説明会を行いました（写真上）。広報ビデオで民際の活動と NHK が放映した元奨学生の日本訪問のビデオを見てもらった後、私がタイ東北地方の生活状況と就学状況、および教育支援の必要性について講演しました。当日の出席者は 8 名。少人数でしたが、講演後の質問で、「タイ国政府としての支援はないのか？」「どうして、この様な活動をしているのか」などの質問があり、予定時間を 30 分も越えて活発な意見交換が行われました。この様な活動でドナーが一人でも多く増えることを期待しています。（世話人　柳沢光一）

■ **はじめのいっぽ**：長野県北部を中心としたドナー（有志）の連絡会「はじめのいっぽ」（世話人、三好由美子さん）が HP を開設しました。
http://thaantawan.sakura.ne.jp/

まだ準備中の部分もありますが、随時、ダルニー奨学金に関する情報を載せるそうです。是非お立ち寄り下さい。

■ **マザーテレサの会**：私は東京都の杉並区役所に勤務しており、共済組合の「共済だより」1 月号に書き損じはがきの収集への協力を呼びかけました。これは 4 年前からはじめ、現在、タイ中学生 3 人、ラオス小学生 3 人を支援しています。今年もはがき 835 枚、テレカ 83 枚、インクカートリッジ、ビール券、切手などをご寄付いただき、タイ中学生 1 人、ラオス中学生 2 人を新しく支援できました。お礼状送付の作業など大変な面もありますが、来年も是非掲載したいと思います。（世話人　東矢高明）

昨年の研修旅行前、「マザーテレサの会」で支援する奨学生宅を訪ね、奨学生と彼女の祖母、いとこに会う東矢さん（右）

10 月 21 日（土）、22 日（日）第 6 回ドナー&連絡会の集い

信濃で奨学生自慢とおらが蕎麦

今年も「ドナー連絡会全国会議」の時期がやって来ました。今年は趣向を変えて、ドナーが個人で支援している奨学生の自慢話やタイ・ラオス研修旅行の体験談などの披露を中心に、個人参加で集まる会にします（それで名称も上記の通り「ドナー＆連絡会の集い」に。もちろん、参加される連絡会には活動報告もお願いします）。開催日程は以下のとおり。お申し込みは民際センター事務局まで。
日時：2006 年 10 月 21 日（土）、22 日（日）
場所：長野県佐久一萬里ホテルゴールデンセンチュリー
費用：11,000 円（21 日の夕食、22 日の朝食・昼食込み）
主催：佐久平ドナー連絡会
※昨年のワイン会議でダルニー奨学金支援活動を発表した「山梨ろうあ学校」の活動支援をしたいので、夏用古着とベルマークをご持参下さい。
※夕食後の懇親会用に食べ物・飲み物をご持参下さい。
※22 日昼食後、希望者を対象に戦没画学生慰霊美術館「無言館」めぐりを予定しています。

■■■ダルニー通信と募金箱のある店　ぎゃらりい・茶ろん「杜々（とど）」

店主　今溝　恵子

新潟市東明 4-3-22
TEL：025-286-5334

私の店は今年 4 月 17 日にオープンしたばかりです。この地に親戚縁者に恵まれず、夫は単身赴任が 20 年以上も続き、フルタイムで働いてきた私は、休日には人が寄り集まり、にぎやかにしている家がうらやましかったのです。退職してからは尚のこと、人が集まる場所がほしいと思いながら、自宅脇で野菜づくりなどをしていました。そこへ中越地震で私が卒業した、築 102 年の小学校の木造校舎が取り壊しの運命だという新聞記事が飛び込んできました。そこで、その黒光りする床板と味わいのある腰板をもらいうけ、「ぎゃらりい・茶ろん　杜々」の開店がかなったのです。

ダルニー奨学金とのお付き合いは 10 年以上になります。今まではフリーマーケットでの売上金を奨学金に当ててきましたが、店は土日も営業しているので、フリーマーケットへの出店が難しくなりました。これからは店内に募金箱を置くことで新たな支援ができそうです。ダルニー通信の「募金箱設置店からの声」などを参考にして、「杜々」の奨学生が誕生することを願っています。募金箱設置からまだ 4 日（5 月 29 日現在）しか経っていませんが、ただ置いただけなのに、すでに 720 円入っていました。後々、店で集めた奨学金で学校に行った奨学生の証書と写真を貼り出し、その奨学生のことを語り合える日が来ると夢見ています。また、ラオスのコーヒーなどが常に飲める店にしたいと思っています。

● 新潟ドナー連絡会世話人　赤石隆夫さんから PR！「新潟ドナー連絡会の広報担当“今溝さん母娘”がエスニックな集いの空間を開店！ギャラリーにはダル通と募金箱！本格ラオコーヒーも準備中。BGM にはイサーンモーラム。随所にイサーン訪問の経験が生きてます」

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。ご利用につきましては、下表のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。またご意見、ご希望、ご投稿もお待ちしております。

	項　目	対象	希望資料・依頼	同封する物など	送料	備　考
1	募金箱を設置したい	タイ・ラオス	取扱説明書及び申込書	電話、FAX メール依頼可	実費	随時受付。お知り合いのお店などにおいていただけるとありがたいです
2	毎年忘れず奨学金を送金したい	タイ	自動払込	なし	不要	新奨学生の支援にご活用ください
3	奨学金や現地に関するビデオが見たい		展示パネル ビデオ（タイトルは備考参照）	なし、電話依頼可	実費	1.「心の通う国際協力」(10 分) 2.「タイ奨学生感謝の来日」(NHK,20 分) 3.「この子の夢を叶えたい」(TV大阪 30 分) (1、2 は DVD もあります)
4	奨学生からタイ語で手紙が来た	タイ	手紙の翻訳 タイ語→日本語	手紙原本	80 円切手 4 枚	随時
5	奨学生の氏名をカタカナで読みたい	タイ	生徒名のカタカナ表記	往復はがきで請求	不要	登録番号と生徒番号を明記して下さい
6	奨学生に負担をかけず文通したい	タイ	タイ切手セット (12 回分) 千円	代金 返信用封筒	80 円	代金は郵便定額小為替か現金でお願いします
7	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ希望		ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ登録票	なし	不要	作業の年間スケジュールを同封します
8	個人で現地を訪問したい	タイ	奨学生訪問の手引き	返信用封筒	80 円	随時
9	地域や仲間で連絡会を作りたい		ﾀﾞﾙﾆｰﾄﾞﾅｰ連絡会の手引き	なし	不要	随時
10	書き損じはがき・未使用テレカ収集を呼びかけたい	タイ・ラオス	書き損じはがき・未使用テレカキャンペーン 案内	なし	不要	はがき送付用紙付き
11	タイ・ラオス奨学金のリーフレット	タイ・ラオス	リーフレット	なし	不要	随時。ダルニー通信 42 号 5 ページ参照
12	カンボジア奨学金のパンフレット	カンボジア	パンフレット	なし	不要	随時
13	はがき・テレカ収集箱設置	タイ・ラオス	折り畳式収集箱を送付	電話、FAX、メール依頼可	実費	送料をご負担いただけると助かります。1 箱 (200 円)、2 箱 (240 円)、3、4 箱 (390 円)
14	ﾊﾞｻﾞｰ等でﾊﾝﾃﾞｨｸﾗﾌﾄを売りたい	タイ		電話依頼	送料実費	在庫に限りがございますので、お早めにお問合せください
15	使用済みインクカートリッジを集める		資料 (メール可)	80 円切手		ダルニー通信 37 号 4 ページと 38 号 9 ページと 41 号 10 ページを参照
16	お年玉・X マスプレゼントをしたい	タイ	プレゼントセット カタログ	返信用封筒	80 円	申込締切は 10 月 20 日 (金)
17	奨学金の説明を聞きたい		事務局説明会 (無料)	毎月第 2 水曜(12:30～)、第 3 火曜(18:30～)。質問にもお答えいたします。必ずご予約ください。遠方の方は交通費実費にて派遣可能。		

編集後記：今年 5 月のタイ研修旅行に参加した吉山さん（写真右）は電気配線工事関係の仕事をしていました。以前に研修旅行に参加した際、訪れた学校の電気配線がひどかったので、もしかしたら今回の学校も、と思い、修理道具一式を持参。案の定、いくつかの教室で電気がつかなかったり（暗い教室！）、スイッチが壊れていてヒューズが露出していたり（200 ボルト！）と、それはひどい状態でした。そこで、もう 2 人の参加者（坂本さんと小嶋さん）と 3 人で蛍光灯やスイッチ、コンセントなどの部品を買いに市場に出かけ、自由時間や食事時間を削ってまで修理をされていました。学校側は大感謝。3 人のお陰で、予想外のすばらしい交流ができました。（冨）

ダルニー通信　第 43 号　　2006 年 9 月 1 日発行　　発行人：秋尾晃正
日本民際交流センター　〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 518　司ビル 301 号
振替口座：00150－0－57664　TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510
ホームページ：http://www.minsai.org/　Eメール：info@minsai.org
表紙：タイ、スリン県バーンチュムセーン村　　撮影：冨田直樹 (民際スタッフ)　2006 年 5 月